

Shiripaの星

北星学園余市高等学校同窓会誌



14年ぶりに帰ってきました

西岡 知洋 (37期)

現在の教育は「転ばない方法・失敗しない方法」を一生懸命こどもたちに詰め込んでいくような気がします。そして、そんな理想という名の妄想を押し付けられて一人ひとり苦しんでいます。失敗しない人間はいない、間違わない人間はいないはずなのに……

けれども、北星余市では「大切なことは失敗しないことや転ばないことではなく、転んだ後に立ち上がることで、やり直してみることを学ぶことができます。一度間違っただけで失敗したら取り残されてしまう、切り捨てられてしまう、見放されてしまう。そんな暮らしの中にあって、「俺たちはまだまだあきらめてないよ」という先生たちの眼差しに私は何度も助けられました。そして、やり直す道は孤独ではないこと。周りの大人が、仲間が時に一



緒に途方にくれ、涙し、それでも一緒に立ち上がり、歩きなおしてくれる。そんな世界があることを北星の先生や先輩、仲間たちの姿から教えられました。北星での出会いと学びが人生の宝になりました。

私は余市教会というキリスト教の教会の牧師として余市に14年ぶりに帰ってきました。私は聖書が語るメッセージは「やり直す機会があること・決して孤独ではないこと」という希望だと思っています。そう思えるのは、北星での経験が根底にあるからです。

教会には今、北星のみなさんが足を運んでくださっています。とても嬉しいことです。教会が学校とも下宿とも違う「居場所」であることができるように力を尽くしていきたいと願っています。

母校のために勝つ！

太田 憲人 (42期)

北星学園余市高校42期卒業生の太田憲人と申します。東京出身の29歳です。卒業後、大学進学、就職し一般企業に勤めていました。もともと格闘技が好きで高校時代もボクシング部を作りたく先生たちにお願したこともあり、昨年思い切って退職し28歳という年齢でプロボクサーとしてデビューしました。

もちろんボクサーだけでは生活できないので平日は午前9時から18時まで不動産の仕事をし、その後ジムで練習をしています。試合の1か月前からはここに減量に加わるので過酷です。北星余市の生活の中で身に着けた精神的な強さとポジティブ思考はボクシングをやる上で大きな武器になっていると思います。

2017年デビュー戦で勝利し、2戦目の前に東京の教育相談会に来ていた田中先生に「北星余市にスポンサーになってほしい」という相談をしました。田中先生、他の先生方にも快く受け入れていただき、試合のトランクスに「北星余市」と入れて試合に臨みました。

そこから順調に勝ち星を重ね昨年11月、ついに東日本新人王決勝戦に駒を進めたのですが結果はTKO負け。新人王決勝はテレビ放送が入るため、インタビュー時に北星余市をアピールすると先生方と約束をしていたのですが果たせませんでした。

試合後網膜剥離が発覚し手術を行う事になり現在に至ります。(この原稿を書いている日は手術5日前です。)現役引退するつもりはありません。しばらく安静にはなりますがしっかりと治して2019年必ず復活します。





はじめに 昨年余市町内で行われた馬場先生の一周忌の記念式で何人かの方から、「是非できれば、馬場先生の追悼文集が出せれば素晴らしい」との声が上がりました。私も大賛成の一人ですので、試みに以下を書いてみました。

馬場先生の思い出は数々ありますが、ここでは紙数の関係もあり、先生の多分生前の最大の大仕事だったと私が考える貴重な「スピーチ」をご紹介します。2014年11月22日に行われた北星学園余市高校創設50周年記念式典後の懇親会でパーキンソン病に侵されていた馬場先生が佐々木先生に支えられて舞台上に進みなされたものです。「北星余市高創設の教育理念」とも言うべきお話です。

「初代校長として山崎金次郎氏が自ら希望を出されていた。しかし彼は男子校校長と余市高校長を兼務して一日おきに両校を行き来するという変則勤務だったので、その校長を支え、校長不在の時はその代わりが出来る人物をと、当時の時任理事長も山崎校長も、北星女子高の人物教諭を候補者に上げて、余市に行かないかと懸命に呼びかけました。しかし女子高での音楽教育に新しい試みを考えているとか、家族も反対しているとかの理由で、女子高に骨をうずめたいと断ってきた。それでも一人「行つて見ようか」という先生がいた。しかし仮校舎を見に行つて、「話には聞いていたがこれは余りにもひどい、新校舎の見通

しもあやふやだ、生徒が集まるかどうかも分からない、持ったとしても2、3年だろう。私の家庭は子どもはまだ小さいし生活が心配だ。」と断ってきた。

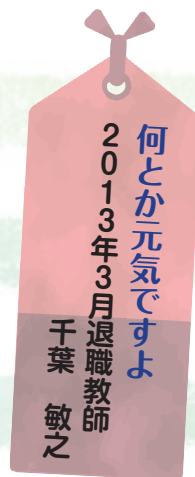
山崎校長が連れて行きたかった男子校の教師も結局男子校に残る、または道内の他の私学を選ぶなどのため、仕方なく、まったく仕方なく、山崎校長は余市行きを希望した私を連れて余市高校を始める事になりました。どういう学校にしているのか二人で2時間余り話し合い、大きく分けて2点で意見の一致を見ました。

1 キリスト教教育を土台にすえるが、それが単なる看板ではなく、また公立高校の補完的役割でもなく、本当の愛の教育を実践しよう。子どもたちとことん愛し、苦しみを共にし、それを乗り越え、喜びを分かち合えるような生徒との関係をつくろう、また生徒同士が一人一人が神様に限りなく愛されている事を知り、生徒同士お互いに愛し合つて歩むような学校をつくろう。

2 山崎校長は男子校時代、謹慎へ長期停学、退学処分、繰り返しに嫌気が差していたので、処罰のない無処罰の学校をつくろう。事件が起きたら、生徒自らの手で解決させていく方向に歩みだそう。そのためには、教科指導にも力を入れるが、生活指導(HR、生徒会活動等)も大切に育てよう。当面「謹慎命令書」、「退学届け」は作らないでおこう。

この方針は、その後のいろいろな試練に遭うが、その精神は引き継がれて行つたと信じてたい。(中略) この創設に当たつての教育理念が、後に全国の教育に大きな影響を与えた「仲間、友情、団結」のス

ローガンによって知られる生徒たちの「自主規律運動」の土台を準備したものであったと考えている。」(文責 安達)



北星余市高校を定年退職して速いもので5年半が過ぎました。退職後は近隣の通信制高校と全日制高校で非常勤の教師をしてきました。どちらの高校の生徒も北星余市の生徒と振る舞いなどがよく似ている生徒が多いので、これまでの経験が十分生かされています。年齢が増えるにつれて疲れを感じることもありますが、北星余市の大先輩で私よりも10歳以上も年齢が上の1先生が同じ高校で頑張っている姿を見て元気づけられています。

この間私は高校で非常勤の教師をする傍ら隣町のある幼稚園の運営にも微力ながら関わってきました。北星学園の創立者スミス女史と同郷の宣教師によって建てられた北星学園にゆかりのある幼稚園です。昨年北星学園は創立130年を迎えました。この幼稚園も120年の歴史があります。次年度からはその幼稚園の運営に今まで以上に深くに関わることになりました。北星余市がそうであるように、少子化の中、幼稚園も園児募集、運営に苦慮しています。これからはますます忙しくなりそうですが、年齢に負けず自分も後輩を元気づけられる存在になりたいと願っているところです。

同窓生の皆さんのそれぞれの場におけ

る活躍をお祈りいたします。



同窓会の皆様いかがお過ごしですか？毎年この同窓会会報誌を楽しみに読んでいます。

まさか自分がこの会報誌に登場するとは思っていませんでした。

私は相も変わらずこの学校でまだ仕事をさせて頂いています。

この間自分周辺で変化したことは人生初の手術と入院生活をしたこと。

父親が2年ほど入院生活を送り他界した。余市から転居したこと……、

ぐらいでしょうか？

学校的に変わったという、私が赴任してきた当初は生徒数が多く1学年6クラスという事が当たり前だったので少子化の影響も受け現在は1学年2クラスとなっています。



学園的には毎年赤字を生む学校は経営的に難しいとして毎年のように廃校を突きつけられています。特に私が担当する分野は芸術で「学校的には贅沢な教科である」ということで何度も異動を命じられますが……。

時折卒業生がわざわざ学校を訪ねてくれます。

私にとってはこのことこそが大きな喜びと励みとなって今日を過ごしております。卒業生は皆立派な大人になっていつも感心しています。また良きお父さん、お母さんになっています。

またぜひ余市に立ち寄る際は学校に顔を見せてくれるとうれしいです。待っています。



本校は昔から、保護者・OB・寮下宿の協力があってこそ成り立っている。

入学式から始まり、強歩遠足・北星祭、学校説明会・相談会、そして卒業式まで生徒・教師の周りには常にPTAの父母、PTAOB、同窓生がいる。

廃校を迫られて悩んでいるときも、いつも笑顔でいてくれる。「我々も地元で頑張るから！」

そんな姿・声を聴くと我々もやるしかない、頑張ろう！と勇気付けられる。

行事の時には、全国各地からお手伝い

に来てくれる。何十年も通っているOBもいる。「自分たちが楽しんでるんだから気にしないで」と言ってくれる。本当に嬉しい事だ。

生徒募集、各地域で行われる学校相談会でも、地元で走りまわって宣伝・準備。当日も会場へお手伝いに来てくれる。そんな人たちに支えられ、見守られ子供たちは伸び伸びと楽しい学校生活を送ることが出来ている。北星余市はそんなPTA・同窓生に助けられてここまで来る事が出来た。

北星余市には卒業はない。自分が、我が子が卒業してから今まで以上に関わって欲しい。楽しんで欲しい。見守っていて欲しい。一緒に育てて行つて欲しいと願っています。



涼風館

①涼風館 川又栄子

②3年生 2名 2年生 5名

③不登校を克服しようとして学校へ来たけれど続ける事が出来ず途中でやめざるをえない事になってしまった時

④いろいろあっても卒業式を迎えて次のスタートラインに立てた時

⑤数知れずあり書き切れません

⑥身体に気をつけてがんばってほしいです

下村下宿

①下村下宿 下村秀規

②(2018年12月現在)
13名(1年8名、2年3名、3年2名)

③冬休み、帰省中の在校生が亡くなった事!!とても残念で辛かった。

④卒業生が連絡をくれたり、訪ねてくれる事

⑤昔は夏はキャンプ、冬はスキー、泊まりで行ってました!
その時の事等々……ないしょです!!

⑥縁があって北星高校と出会い下村下宿に在寮してくれて、何かのついでにでも、思い出してくれたらうれしいです!!

シリーズ 下宿 紹介

①下宿名と管理者(オーナー)のお名前を教えてください

②現在の入居者数・学年構成を教えてください。

③下宿をやっていて辛かった(悲しかった)ことを教えてください。

④下宿をやっていて嬉しかった(楽しかった)ことを教えてください。

⑤忘れられないエピソードがあったら教えてください。

⑥卒業生・在校生に向けて一言お願いします。

育ててくれた 幅さんに感謝

佐々木 成行



—伊藤先生を偲ぶ会になったOB 会 幅口先生は当時はOB 会新人でした—

年に一度、退職教職員たちは望（忘）年会を続けてきています。お互い余市周辺に住んでいながら、一堂に会する機会は12月中旬のこの時になりました。とは言っても「北星の教育」を築いてきた面々ですから、それぞれに近況報告を語りながらも、北星余市のこれからの歩みを語り合うひと時でもあります。

幅さんは、7期生の入学の年に新卒教員として、すぐに担任として教員生活スタートしました。私は民間会社を経験して30歳で余市に来たので、幅さんより年上でしたが、北星余市の職場は担任として一度卒業生を送り出さなければ、半人前にもなりません。その点では幅さんが先輩でした。帰宅時間になると、当時独身だった幅さんの家に頻りに集まり、生徒指導をめぐってお酒を飲みながら、あてもない、こうてもないという議論を交わしたものでした。そんな交わりの中で、教員OBたちは育てられました。私もまちがいがなくその仲間の一人でした。

年に一度の望（忘）年会の仲間から、（2013年・伊藤先生）（2017年・馬場先生）（2018年3月・幅口先生）が卒業していきました。

病と真正面に闘う幅さんの姿を、比較的近くで見せてもらい、北星余市の仲間から、私自身またまた学ばせてもらいました。（安らかに……）

第9期

3年B組 同窓会開催

第9期生 3年B組 山下 義則

卒業生の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

2018年5月12日に第9期生3年B組の同窓会を、札幌東急REIホテルにて開催いたしました。卒業から42年経ち、担任だった吉田先生の古希、我々の還暦を兼ねた2つの節目を迎えた年でありました。B組は吉田先生を含め50名ですが、男子10名、女子10名の20名の参加で、約10年ぶりの開催となり、懐かしい思い出がよみがえった一日でした。少しでも多くの方達の参加を希望していましたが、残念ながら、数名の方が亡くなっており、家庭の事情、病気、住所不明の方達もいて、人それぞれ人生色々を考えさせられ、またこれからの残された人生の過ごし方を考える良い機会となりました。



しかし、時代の流れ、学校の存続等諸事情を考えると決して恥じる事ではないと、今は思っています。

当時は振り返ると楽しい事が沢山思い出されます。

学校が終わった後に、仲間と海に行きタバコを吸ったり、ブドウ畑で勝手にブドウを頂戴したり、毎日のようにタクシーで喫茶店まで行きタバコを吸ったりなど、悪い事も沢山しました。

中学を卒業して親元を離れ、下宿生活を3年間送った高校生活も終わりに近づき、社会人に向けて色々と先生方に相談や悩みを聞いて頂き、適切なアドバイスを頂きました。今日の自分たちがあるのも担任の吉田先生、副担任であった今は亡き北口先生等多くの先生達のおかげだと感謝しています。

これから北星余市は、困難が待ち受けている事と思いますが、学校が存続され更に良い学校へと発展する事を心から願っております。

北星余市は不滅です！
へこたれず、くさらず、シリバ岬のようにどつしりと構え、毅然と立ち向かって頑張ってください！

計 報

平成 30 年 7 月 30 期 E 組 林 知美さん（旧姓横田）

〃 年 11 月 40 期 D 組 吉田明弘さん

お悔み申し上げます。

〈編集後記〉

毎年春と秋、同窓会の役員会が余市町内で開かれます。大抵は土曜日の夕方、食事をしながらの会議です。

役員顔ぶれは十数年変わらず、それぞれの年齢も「初老」に突入したり、ほど近かったりという具合になりました。平均年齢は55才オー

バー、「引退」の2文字がチラチラよぎるようになってきています。

ということで、役員「世代交代問題」は急務です。日本全国にいる若い同窓生にどうアクションを起こしていくか、が今年の大きな課題になりそうです。

「是非参加したい！」という同窓生の方、学校までご一報下さい！（え）

Shiripaの星

Vol.17
2019年2月28日発行

【発行】北星学園余市高等学校同窓会「シリバの星」編集委員会
〒046-0003 余市郡余市町黒川町19丁目2番地1
TEL(0135)23-2165 FAX(0135)22-6097
URL <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>

顧問
編集長
副編集長
編集委員

塚原 治
松村 悦子(15期)
松浦 一法(12期)
安藤 栄子(1期)
本間美智子(5期)
馬場 希(12期)
平野満寿美(14期)
國久 麻美(40期)

【お願い】

下宿が不足してるとのことです。良い情報がありましたら学校までご連絡下さい。